

道連ニュース

2019年7月号 No.156

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

第63回総会報告

第63回通常総会が6月20日(木)ホテルポールスター札幌で開催され、提案された議案すべて承認されました。代議員は33名で実出席18名、書面議決15名でした。

議長には、高口代議員(コープさっぽろ)が選出され、麻田会長より、来賓へのお礼と胆振東部地震支援へのお礼、昨年10月JAグループ北海道と相互連携協定を締結し、地域における社会的課題の解決に向け、協同組合と諸団体が連携して取り組むことの重要性について、挨拶がありました。来賓の北海道環境生活部暮らし安全局長の柴田千尋様、JA北海道中央会参事の高橋和則様、北海道労働金庫林副理事長様から、暮らしの安全安心の取り組み、北海道胆振東部地震における生産者支援へのお礼、相互連携協定締結をもとに協同組合組織間の連携した取り組みを前進させることについてご挨拶がありました。平専務からは第1号議案から第6号議案まで一括して報告・提案があり、一刀特定監事が監査報告を行いました。議案はすべて承認されました。発言で



麻田会長

は、コープさっぽろ金子代議員より、認知症予防の取り組み、あさひかわ福祉生協吉岡代議員より「みんなのカフェ事業」、保育から学童保育まで一貫した事業が実現したことの報告、北大生協小助川様より、レジ袋有料化の取り組み報告がありました。

役員改選では、岸本理事(北大生協)が退任され、新任理事では北大生協の小助川誠専務理事、監事で大学生協事業連合の須田正樹常務理事が選任となり、他は再任されました。



北海道環境生活部暮らし安全局長 柴田様

「福祉問題を総合的に考える委員会」の活動が5年目になりました!

6月12日、第25回福祉問題を総合的に考える委員会が、13名の委員の参加で開催されましたので報告いたします。

当委員会が活動を始めてまる4年が経ち、今回から5年目に入りました。この間、参画メンバーは9団体から16団体に広がり、スタート当初は北海道生協連会員中心の活動でしたが昨今は道連会員よりも地域で活動する、NPOや福祉団体等が過半数を占めるようになり、より専門的経験と知識を生かした活動となってきました。

今回は、この間取組みを重視しています。「子ども食堂」の活動到達点と北海道生協連としての今後の取組み視点について報告します。

2017年に北海道生協連が「子ども食堂」問題に取り組み始めた頃の子ども食堂は、石狩管内で29ヶ所、全道で50ヶ所超の実態があるのではと報道されておりました。2019年3月時点では石狩管内60ヶ所、全道で150超の実態が把握されております。こども食堂北海道ネットワークの呼びかけに呼応し当初から参加して頂いた15団体に加え、この2年間では30を超える運営者と北海道、札幌市の2行政担当部局をはじめ

10に近い支援事業者が集う中間支援組織としてネットワークが拡大してまいりました。

北海道生協連この2年間、子ども食堂運営者の自主性を尊重し「見守り」を基本スタンスとして、事務局の派遣と必要経費の負担で、活動をサポートしています。活動内容としては、食事提供の「安全確保」で衛生管理のサポート、活動参加者の「安全確保」で子ども食堂保険の紹介・斡旋などを学習・交流活動を通じて、運営者・行政窓口担当者との信頼関係の構築にとめた結果、参加者の拡がりを見てきています。

一連の活動実績が社会的に評価され、昨今では未参加運営者からの問い合わせや各種集会への参加・発言要請、マスコミ取材、行政からの意見聴衆に加えて活動助成金の申し出なども広がってきています。子ども食堂へのサポート活動の社会的な評価が定着し、北海道生協連の存在価値が高まった事は、大きな成果といえます。(行政とのパイプが太く複数となりました)

今後一年をかけて、ゆるやかな組織運営の「こども食堂北海道ネットワーク」のあり方や北海道生協連の係わり方について、現場目線で検討・調整していきます。以上ご報告します。引き続きご協力をお願い致します。

5月25日

ヒバクシャ国際署名ジャンプアップ集会開催報告の件

5月25日(土)ヒバクシャ国際署名ジャンプアップ集会在札幌教育文化会館にて140名参加のもと、開催されました。冒頭、共同代表の眞田保北海道被爆者協会会長から、核の脅威が再び強まる方向にあり、被爆者は懸念している。被爆者の思いを実現する核兵器禁止条約批准国は23カ国になり、50カ国の批准により発効するが、日本政府は反対している。国際世論を高めるヒバクシャ国際署名の推進に引き続きご協力いただきたい。とりわけ、北海道では18年度63万筆に到達したが、道民の過半の目標との関係では、もう一回り、呼びかけが必要です。皆さんのお力で盛り上げていただきたい旨の挨拶をされました。

続いてピースボート共同代表 I C A N 国際運営委員の川崎哲氏より、『核兵器はなくせる一世界の動きと核兵器禁止条約』と題し、核保有国が唱える核兵器禁止条約への「対立を深める」=>「核不拡散条約は核保有国に差別的の特権的な地位を与えるかわりに、核軍縮する義務を課してきたが、履行されないことから、NPTを強化するものである。「実効性がない」=>政治的圧力として人道に対する罪、使えない武器をいつまでもつのか、経済的圧力として核兵器製造への投資禁止の動き、社会的圧力として「力」から「恥」のシンボルへの価値転換となる。「現実的でない」=>理性的選択として「核だらけの世界」か「核のない世

界」どちらが安全な社会か。と説得力ある回答についてお話頂きました。特別報告として原水爆禁止富良野実行委員会事務局長の坂井司様より、粘り強く「政府に核兵器禁止条約への署名と批准を求める自治体意見書」実現にむけた取り組み事例の報告をいただきました。第2部は、『高校生みらいトーク』と題し、ピースアクションや高校生平和大使など参加した高校生と川崎哲さんによるパネルディスカッションを高校生自身の運営で行っていただきました。参加した高校生は、平和や核兵器の話題を仲間に呼びかけたりすることへの葛藤や不安、乗り越えた経験など交流するとともに、少しでも前に進める行動について、確認しあいました。傍聴していた私達も感銘を受けました。今後も継続していきたい企画となりました。



子ども食堂北海道ネットワーク第9回学習交流会開催！ 6/10(月)

かねてより予定されていた上記学習交流会が運営者30団体、支援事業者、行政14団体（合計65名）の参加により6月10日(月)13時半から16時半、全労済会館2階大会議室にて開催されました。

札幌市社会福祉協議会の多面的な地域活動を学ぶ！

第一部学習会では札幌市社会福祉協議会総務課長・前田様による社会福祉協議会の目的や具体的な活動内容、実際の様々な現場の紹介！に参加者一同「地域、での自助・共助・公助に思いを馳せ、現実に展開されている地域福祉について学び、考える機会となりました。また共生社会実現に向け企業と共に計画している社会貢献事業の本年度の具体化について既存の子ども食堂運営団体に向けコラボレーションを呼び掛けて頂きました。



札幌市社会福祉協議会 前田課長



現実の多様さを傾聴する参加者



率直に語り合う参加者の皆さん



食品ロス削減と助け合いの思いを繋げる一つの具体化として提起され、子ども食堂北海道ネットワークへの活動参加が呼び掛けられました。

地域での課題！ 運営面での課題、苦勞を率直に交流する！

第二部の交流会では市内外6地域から参加頂いた社協さんのご担当者様を交えて基調講演を聴いた感想、運営地域で見えてきた様々な子ども達をめぐる現実、そして自らの子ども食堂をめぐる厳しい現実とそれぞれの熱い思いを共有し、改めて多面的な視野で理解共有し合う大切さをグループで学び合いました。また全労済さんからはリトルマーメイドの取り組み報告、労金さんからは2019年度助成選考等について報告され、最後に安田代表からの代表離任の挨拶を受け、共に今後も連携していく事を確認して散会となりました。